



青木 美都さん
Mito Aoki
〔仁田子区〕

アウトドアが大好きで、周りから「ガチキャンパー」と呼ばれている青木さん。カレースパイイスを調合したり、果実のシロップやアクセサリーを作ることも好きとのこと。まだまだ底知れない魅力がたくさん詰まっています。

人とのつながり大切に 町の魅力を発信したい

昨年11月の終わりに地域おこし協力隊として着任した青木美都さん（48）。「甲佐町は熊本市内との距離も近く、生活していて不便に感じることは今のところありません」と

話す。

青木さんは以前、JAが運営する地産地消の食材を使った熊本市の飲食店で、ホールスタッフとして働いていた。2年半の勤務だったが、地域

で生産された食材の魅力を来店者に伝える仕事にやりがいを感じ、「地元の良いものを多くの人に知ってほしい」との思いで取り組んできたという。その経験は、現在の地域おこし協力隊としての活動にもつながっている。

甲佐町を知ったきっかけは、趣味のキャンプだった。町内のキャンプ場「コモニイ

ドエ」によく通っていたことから、町に親しみを感じていたという。ある日、キャンプ場のスタッフ募集の広告を見つけて応募。その過程で地域おこし協力隊という制度があることを知り、「面白そうだな」と思って応募しました」と振り返る。

現在の主な任務は、移住・定住の促進を目的とした町の広報活動だ。町の移住・定住公式SNSの運用を担当し、情報発信の一つとして活用しているのが、ウェブメディア「note」。町内移住者へのインタビュー記事などを掲載し、甲佐町での暮らしや地域の魅力を紹介している。

「インタビューや記事執筆、写真撮影はこれまで経験のない分野で、最初は不安もありました」と青木さん。それでも「楽しみながら仕事ができていたので、前向きに頑張っていました」と話す。

4月からの新年度には、あゆみ学舎の地域おこし協力隊と協力し、町の起業等応援施設「MEBKAS」でマルシェの開催を企画。あゆみ学舎

に通う高校生や地域の子どもたち、そして地域の人たちが気軽に集まり、交流できる場をつくりたいと考えている。マルシェでは、ワークショップを中心に、大人も子どもと一緒に楽しめる内容を予定している。「地域の人たちが寄り集まって、一緒に楽しめる場所ができればうれしいですね」と青木さん。甲佐町の新しい暮らしとともに始まった協力隊としての活動。「これからも人とのつながりを大切にしながら、町の魅力を発信していきたい」と目を輝かせている。



コモニイドエキャンプ場で友人とキャンプを楽しむ青木さん